

## 玉川野毛町公園拡張事業基本計画（案）について

### 1 主旨

区立玉川野毛町公園の拡張については、公園利用者や近隣住民へのアンケート調査及び利用実態調査、民間事業者を対象にした公募型サウンディング調査の結果を踏まえ、平成31年2月に「区立玉川野毛町公園拡張事業基本計画の骨子」を策定している。

その後、シンポジウム、現場見学会、ワークショップ等の様々な機会にて区民と意見交換を重ね、専門家の助言も踏まえ、この度、基本計画（案）を取りまとめたので報告する。

### 2 計画地の概要

- (1)所在地：世田谷区野毛一丁目18番～23番、25番（国土交通省等々力宿舎跡地）
- (2)公園種別：都市公園（地区公園）
- (3)公園面積：約6.6ha/既開園区域（約3.8ha）及び拡張予定地（約2.8ha）

### 3 検討の経過

#### (1)基本計画検討前の経過

平成28年12月：基本構想の策定（公園整備の3つの基本的な考え方）

- ・みどりとみずをつなぐネットワークづくり
- ・歴史文化を感じられる空間づくり
- ・安全・安心の公園づくり

平成30年 5月：基本的な考え方の策定（公園拡張の視点や今後の進め方）

- ・対話による公園づくりの推進（住民協働、官民連携）など

平成31年 2月：基本計画骨子の策定

- ・公園拡張のテーマ
- ・主なゾーニングと公園機能 など

#### (2)区民参加・専門家との検討経過 【別紙2本編：P7-13、P14-15】

令和元年 9月：キックオフシンポジウム 参加者約90名

：アンケート調査 回答438件

10月：現場見学会 参加者約200名

11月～令和2年10月：ワークショップ（計4回） 参加平均35名

令和3年 2月：現場見学会（基本計画イメージの説明等） 参加者約600名

アンケート調査（基本計画イメージの意見聴取）回答374件

2、3月：専門家の助言

アンケート及び公園づくりの検討経過などは、近隣（約13,000世帯）へのニュース配布（計6回）や区のおしらせ、区のホームページなどで行っている。

(3) 官民連携（民間事業者との対話など）の検討経過【別紙2本編：P8-9】

平成30年7月：区民アンケート 回答236件

公園利用者のカフェ、レストラン、売店等の需要を把握

9～11月：サウンディング調査 参加事業者等14団体

飲食物販施設の導入（便益・サービス施設）や公園運営の拠点となる施設（公園利用や活動の拠点となる施設）について提案を受ける。

令和元年度以降：ワークショップ、現場見学会、アンケート調査での区民意見聴取

- ・みどりの中でゆっくり過ごせるカフェやレストラン、物販店など、公園施設や休憩施設とあわせて日常的に利用できる施設がほしい。
- ・飲食物販施設の誘致にあたっては、賑やか過ぎるものでなく、公園の特性や住宅街である地域性に配慮した施設としてほしい。など

4 公園づくりの方針

○ともにつくる、ともにあゆむ公園づくり

公園を身近な暮らしの舞台として、づくりこみすぎず、人との関わりにより育てていく『余白をいかした公園づくり』を目指す。

○みどりとみずのネットワークづくり

国分寺崖線、等々力溪谷の豊かな自然とつなぎ、憩い楽しめる空間として、自然のなかの遊びや学びの場をつくります。

○歴史・文化を感じられる空間づくり

野毛大塚古墳をシンボルに自然環境や歴史文化を守り伝える場とする。

○安全・安心の公園づくり

防災機能を有し、地域の防災拠点として活用できる公園とする。また、水害対策として、グリーンインフラの考えによる雨水流出抑制に取り組む。

（今年度、研修生として世田谷区に訪れる予定のポートランド市職員（グリーンインフラ等専門）とも意見交換しながら検討する予定。）

5 基本計画

別紙1 玉川野毛町公園拡張事業基本計画（案）概要版

別紙2 玉川野毛町公園拡張事業基本計画（案）

6 概算経費（想定）

7億6千万円程度（拡張予定地内の施設整備費）

引き続き、設計段階において整備費の削減や税外収入の確保を検討していく。

7 今後のスケジュール（予定）

令和3年5月 基本計画の策定

6月～ 区民参加による基本設計の検討、官民連携手法の検討

令和4年度 基本設計の策定、実施設計、民間事業者公募

令和5年度 整備工事、一部開園

令和6年度以降 順次開園

# 玉川野毛町公園拡張事業 基本計画 ～概要版～ (案)



## 玉川野毛町公園拡張事業について



公園位置図

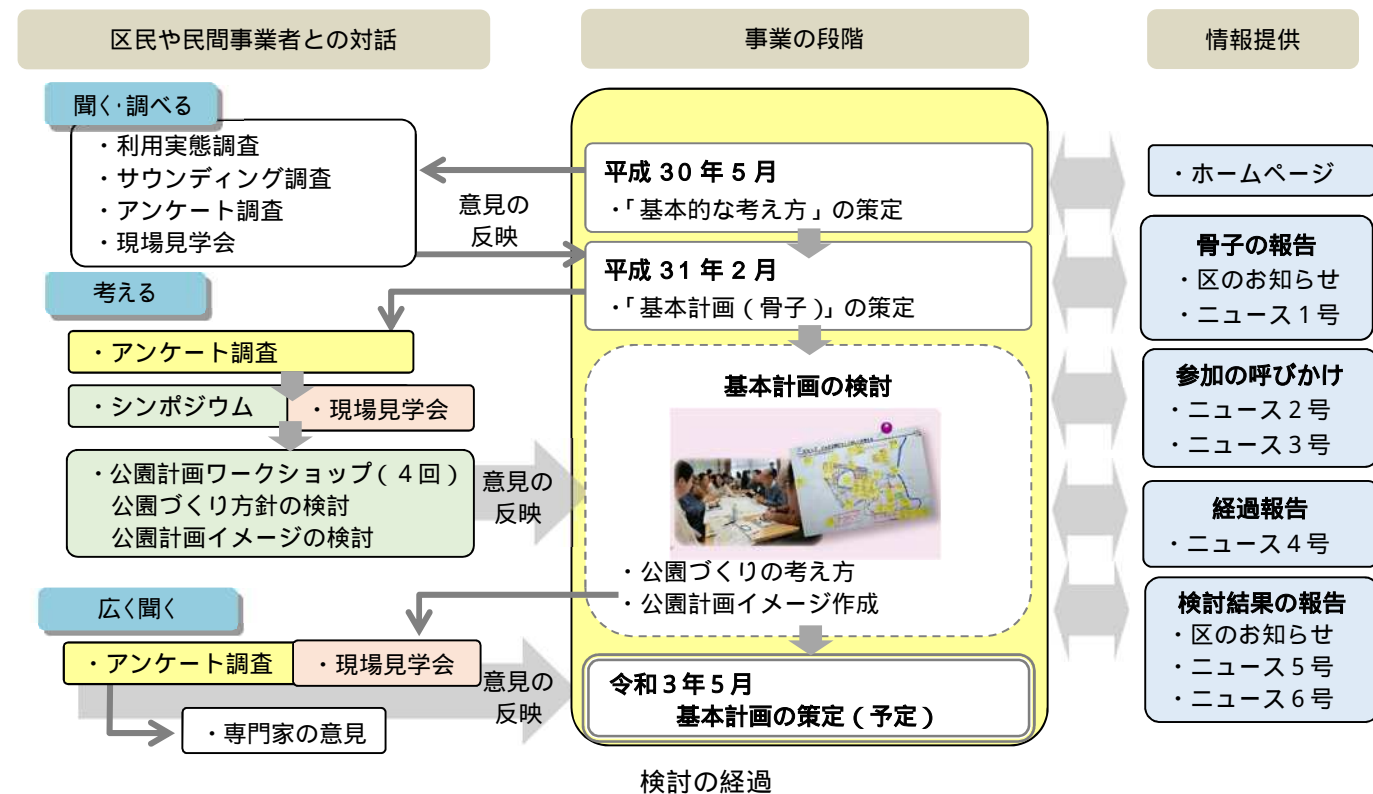
玉川野毛町公園に隣接する約 2.8ha の土地を拡張整備する玉川野毛町公園拡張事業を進めています。

～ 拡張予定地と周辺の特徴について～

- ・ 拡張予定地の西側にはスポーツ施設がある既開園区域、東側には等々力溪谷が位置しています。
- ・ 野毛大塚古墳をはじめ周辺には、古墳や横穴墓群が多く分布しています。
- ・ 既開園区域と拡張予定地は、玉川野毛町公園一体として広域避難場所となっており、隣接する環状八号線は緊急輸送道路に指定されています。

## 検討の経過について

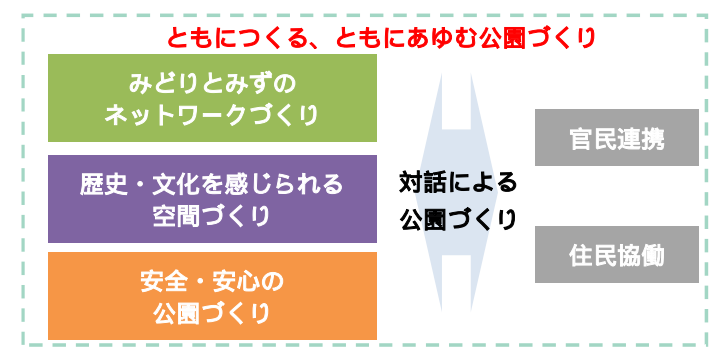
基本計画の作成にあたっては、区民や民間事業者と対話をしながら公園づくりを進めてきました。公園づくりの呼びかけや検討の経過など情報提供は、近隣(約13,000世帯)へのニュース配布や区のお知らせ、区ホームページなどで行いました。検討の経過は下図の通りです。



## 公園づくりの考え方

### ○公園づくりの目標

世田谷の先人たちを育んだ豊かなみどり、歴史文化を区民の手で大切に育み、100年後も地域に愛される公園を目指します。



### ○公園づくりの方針

ともにつくる、ともにあゆむ公園づくり

公園を身近な暮らしの舞台ととらえ、区民や事業者が主体的に関わり、公園の利用や活用を通じて、地域がつながり、楽しみひろがる魅力ある公園運営を行います。つくりこみすぎず、人との関わりにより少しずつ公園を育み、「余白をいかした公園づくり」を目指します。

みどりのみずのネットワークづくり

国分寺崖線のみどり、等々力溪谷の豊かな自然とつながります。草地から森まで多様なみどりをみんなで作って、子どもから大人まで憩い楽しめる活動、自然の遊び、学びの場をつくります。

歴史・文化を感じられる空間づくり

野毛大塚古墳等の文化財を通して、多摩川や国分寺崖線等の自然環境と歴史文化を守り伝える取り組み、学ぶ機会をつくります。また、野毛大塚古墳をシンボルに、公園と古墳がつながる景観をつくります。

安全・安心の公園づくり

誰でも安心して訪れることができる公園をつくります。災害に備えた防災機能を持ち、地域の防災拠点として活用できるよう、広域避難場所、緊急輸送道路の特性を踏まえた災害に役立つ拠点ををつくります。

## 公園の基本構成



土地利用計画図



子ども広場(既開園区域)

オープンスペースと様々な樹木(拡張予定地)

公園計画イメージ（基本計画図）

拡張予定地の基本計画図を取りまとめました。また、公園の一体性やエントランスの魅力を高めるため、既開園区域の一部もあわせて基本計画を検討しました。

エントランスの再整備に伴い、テニスコートは既開園区域内に移設することとします。

みどりにつつまれた駐車場



イメージ

公園の顔となるエントランス

- みどりあふれるエントランスで来訪者を迎え、既開園区域、拡張区域、等々力溪谷を結ぶ。
- エントランス広場では飲食や物販を誘致し、日常的な公園利用の楽しみが広がる。



イメージ

活動をサポートするバックヤード

- 森づくりや様々な活動を支える。



イメージ

安全・安心の公園づくり

- 地域防災活動が行える広場や施設、災害時の車両の乗り入れなどを整備し、防災に役立つ公園となる。
- 公園に降った雨を溜め、雨水の流出を抑える施設（雨水貯留、浸透、グリーンインフラ等）をつくる。
- 防犯に配慮し、見通しの良い公園空間となる。
- 敷地境界部には緩衝帯をもうけ、プライバシーや景観に配慮する。

野毛大塚古墳

- 古墳と周辺の公園施設がつながり、公園のランドマークとなる。
- 古墳の魅力や地域の歴史を学び、伝える場となる。
- 古墳の保全に取り組む。



野毛大塚古墳

区道と公園の一体性

- 歩道状の園路をつくり安心して歩ける。
- 電柱の地中化を検討する。

濃いみどり



拡張区域 2019年撮影

イメージ

- これまで育まれたみどりを、等々力溪谷とつながる森としてみんなでつくり、育てる。
- 森のなかで生きものの住処づくりや落ち葉集め、生きもの観察など自然体験ができる。

拠点となる施設

- 住民参加により、日々様々な活動や交流、イベントが開催できる拠点となり、余白をいかした公園づくり、公園運営を実践する。
- 歴史文化・環境学習活動の拠点となる。
- 防災機能・軽飲食等を兼ねた施設を検討する。



イメージ

草地の広場

- 公園の中心となる広いオープンスペースで等々力溪谷から古墳までつながる。
- 古墳や富士山を眺めながら、のびのびゆったりと、過ごすことができる広場となる。



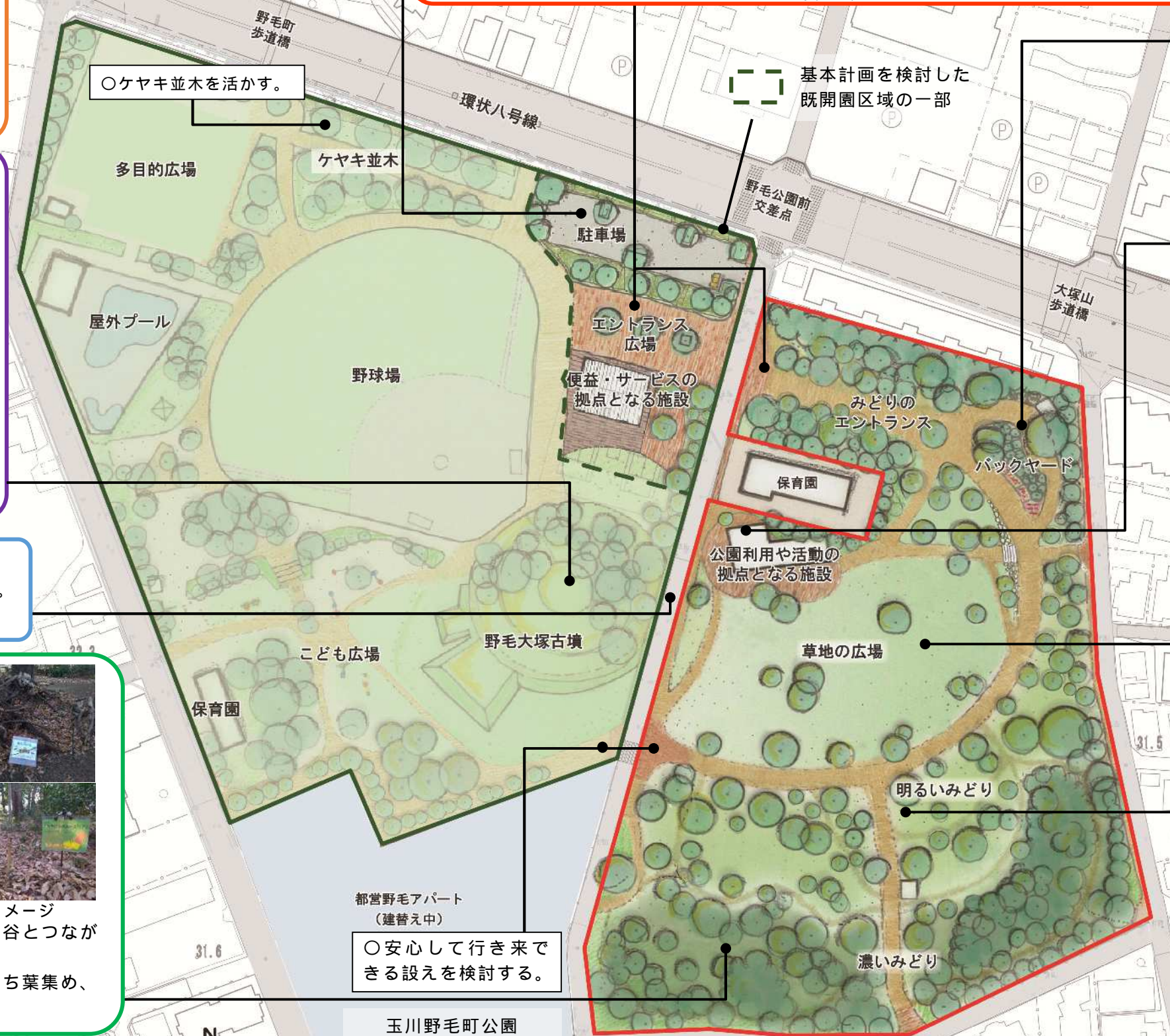
イメージ

明るいみどり

- 子どもたちは、みどりのなかで木々や土に触れて、自然の遊具で思いっきり遊べる。
- 大人たち、家族の利用では、心地よい木陰のなかで憩い、思い思いに過ごすことができる。



イメージ



○ケヤキ並木を活かす。

ケヤキ並木

基本計画を検討した既開園区域の一部

野毛公園前交差点

エントランス広場

便益・サービスの拠点となる施設

みどりのエントランス

バックヤード

保育園

公園利用や活動の拠点となる施設

草地の広場

明るいみどり

濃いみどり

都営野毛アパート（建替え中）

○安心して行き来できる設えを検討する。

玉川野毛町公園

既開園区域

拡張予定地

トイレは適切な位置に必要な数を配置する。スポーツ施設の受付や倉庫などの管理施設は、拠点となる施設との複合化等を検討する。避難所運営のための広域用防災倉庫を増設する。



玉川野毛町公園  
拡張事業基本計画  
(案)



# - 目 次 -

1 . 事業の概要 . . . . .	1
( 1 ) 事業の概要 . . . . .	1
( 2 ) 計画上の位置づけ . . . . .	2
( 3 ) 計画地の現況 . . . . .	3
2 . 計画地の特性 . . . . .	4
( 1 ) みどり . . . . .	5
( 2 ) 歴史 . . . . .	6
( 3 ) 防災上の位置づけ . . . . .	6
3 . 対話による公園づくり . . . . .	7
( 1 ) 検討の経過 . . . . .	7
( 2 ) 区民や民間事業者との対話 . . . . .	8
( 3 ) 基本計画への反映 . . . . .	13
( 4 ) 専門家の助言 . . . . .	14
4 . 公園づくりの考え方 . . . . .	16
( 1 ) 公園づくりの目標 . . . . .	16
( 2 ) 公園づくりの方針 . . . . .	16
5 . 公園の基本構成 . . . . .	17
( 1 ) 公園の特性 . . . . .	17
( 2 ) 公園の空間構成 . . . . .	17
( 3 ) 公園の土地利用計画 . . . . .	18
( 4 ) 公園の動線計画 . . . . .	19
6 . 公園の計画イメージ . . . . .	20
( 1 ) 基本計画図 . . . . .	20
( 2 ) 公園計画イメージスケッチ . . . . .	21
7 . 公園の整備イメージ . . . . .	23
( 1 ) ともにつくる、ともにあゆむ公園づくり . . . . .	23
( 2 ) みどりとみずのネットワークづくり . . . . .	25
( 3 ) 歴史・文化を感じられる空間づくり . . . . .	27
( 4 ) 安全・安心の公園づくり . . . . .	29
( 5 ) その他の公園施設 . . . . .	31

8 . 公園整備に向けた配慮事項 . . . . .	32
( 1 ) ユニバーサルデザインによる公園整備 . . . . .	32
( 2 ) グリーンインフラによる公園整備 . . . . .	32
( 3 ) コロナ禍における新しい生活様式を踏まえた公園整備 . . . . .	32
( 4 ) SDGs ( 持続可能な開発目標 ) の達成にむけた公園整備 . . . . .	32
( 5 ) 区道と公園の一体性に配慮した公園整備 . . . . .	33
( 6 ) 様々な公園需要に応じた柔軟な公園整備 . . . . .	33
( 7 ) ウォーカブルな空間づくりに役立つ公園整備 . . . . .	33
( 8 ) 公園内外の自然的景観を意識した公園整備 . . . . .	33
9 . 概算整備費 . . . . .	33
10 . 協働による公園づくりの視点 . . . . .	34
( 1 ) 公園の魅力を高め、広げる取り組み . . . . .	34
( 2 ) 身近な区民参加の場づくり . . . . .	34
( 3 ) 民間活力の導入による公園の魅力向上の取り組み . . . . .	34
11 . 事業スケジュール . . . . .	36

## 1. 事業の概要

### (1) 事業の概要

世田谷区立玉川野毛町公園は、昭和 31 年に都立公園として開園し、昭和 40 年に区へ移管されて以来、長年にわたりみどりのオープンスペース及びスポーツ・レクリエーションの場として、地域住民の皆様に親しまれてきました。

このたび、世田谷区では、玉川野毛町公園に隣接する国土交通省等々力宿舎跡地の一部である約 2.8ha の土地を、主に徒歩圏内に居住する者の利用を目的とした地区公園として拡張整備します。

なお、「玉川野毛町公園拡張事業」にあわせ、既開園区域についても「世田谷区立公園等長寿命化改修計画」に基づき、既存の公園機能を維持しながら改修を行います。

#### 世田谷区立公園等長寿命化改修計画

世田谷区公共施設等総合管理計画の公園維持・改修分野の個別計画として策定するものです。この計画は、老朽化する公園施設に的確に対応するため、対処療法的な維持管理から、調査点検に基づく優先度を設定した計画的な維持管理に転換していき、財政負担の平準化や公園施設の安全性・防犯性の向上を目的としています。

**名 称：**玉川野毛町公園

**所 在 地：**世田谷区野毛一丁目 18 番～23 番、25 番

**公園種別：**都市公園（地区公園）

**公園面積：**約 6.6ha/既開園区域（約 3.8ha）及び拡張予定地（約 2.8ha）

**都市計画施設：**都市計画公園

**地域地区：**既開園区域（第一種中高層住居専用地域 / 第二種住居地域（環八から 25m）  
第二種風致地区）

拡張予定地（第一種低層住居専用地域 第二種風致地区）

**地区計画等：**沿道地区計画区域（環八から 25m）



玉川野毛町公園 位置図

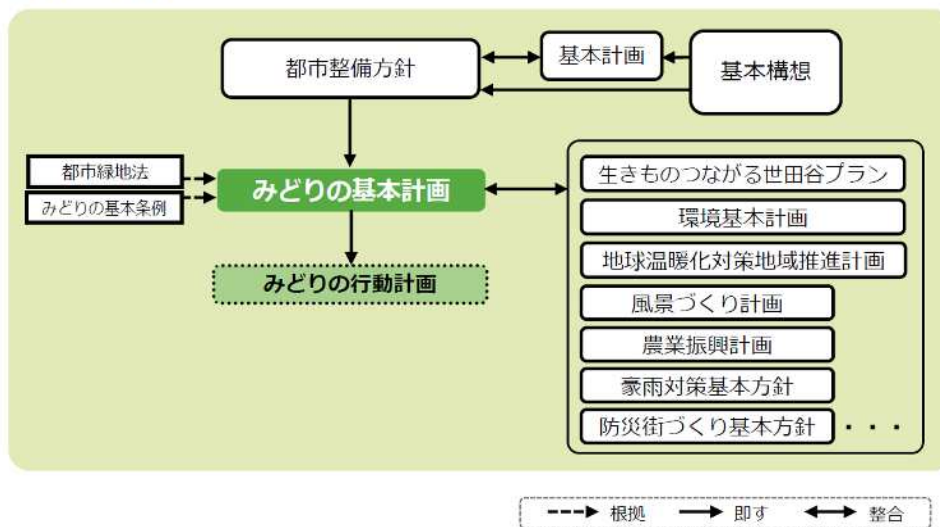


## (2) 計画上の位置づけ

区では、世田谷区基本構想・基本計画を上位計画とし、都市整備方針に即した「世田谷区みどりの基本計画」、「生きものつながる世田谷プラン」を策定しており、本事業はそれらの各計画に基づき実施するものです。

「みどりの行動計画」では、核となる魅力あるみどりを創出するため、区民との協働による公園整備を行うこととしています。また、民間施設（カフェ等）の誘致、大規模な生きもの拠点の整備など、魅力あふれる公園づくりにも取り組むとしています。特に、等々力溪谷公園や既開園区域とつながり、自然や生きもの、歴史文化を学ぶことができ、かつ、防災・減災に資する公園を目指します。

### ■計画の位置付け



また、「生きものつながる世田谷プラン行動計画」では、リーディングプロジェクト N0,1「生きもの拠点づくりプロジェクト」に位置付けられ、生きもの拠点として、生物多様性に配慮した環境づくりを行い、区内の生き物ネットワークおよび広域的な生き物ネットワークを形成していくこととしています。

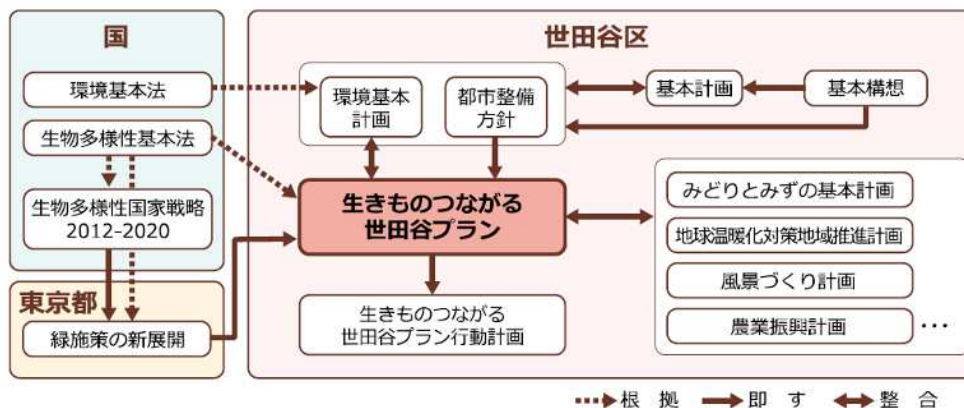


図1 生物多様性地域戦略と国・都の法律や計画との関係図

### (3) 計画地の現況

既開園区域は、東京都指定史跡となっている野毛大塚古墳や地域スポーツ施設、フットサルコートやバスケットゴールを有する多目的広場、健康づくり広場が整備されており、スポーツ利用から、文化、教養、レクリエーションの場となり、子どもから高齢者まで楽しむことができる公共空間となっています。また、ケヤキ並木をはじめ、長い間生育してきた樹木が全体に広がっています。

拡張予定地は、国土交通省等々力宿舎の跡地であり建物跡地のオープンスペースと様々な樹木によって構成されています。



既開園区域の公園機能と拡張予定地の現況



子ども広場（既開園区域）



屋外プール（既開園区域）



古墳を望む（拡張予定地）



野毛大塚古墳（既開園区域）



ケヤキ並木（既開園区域）

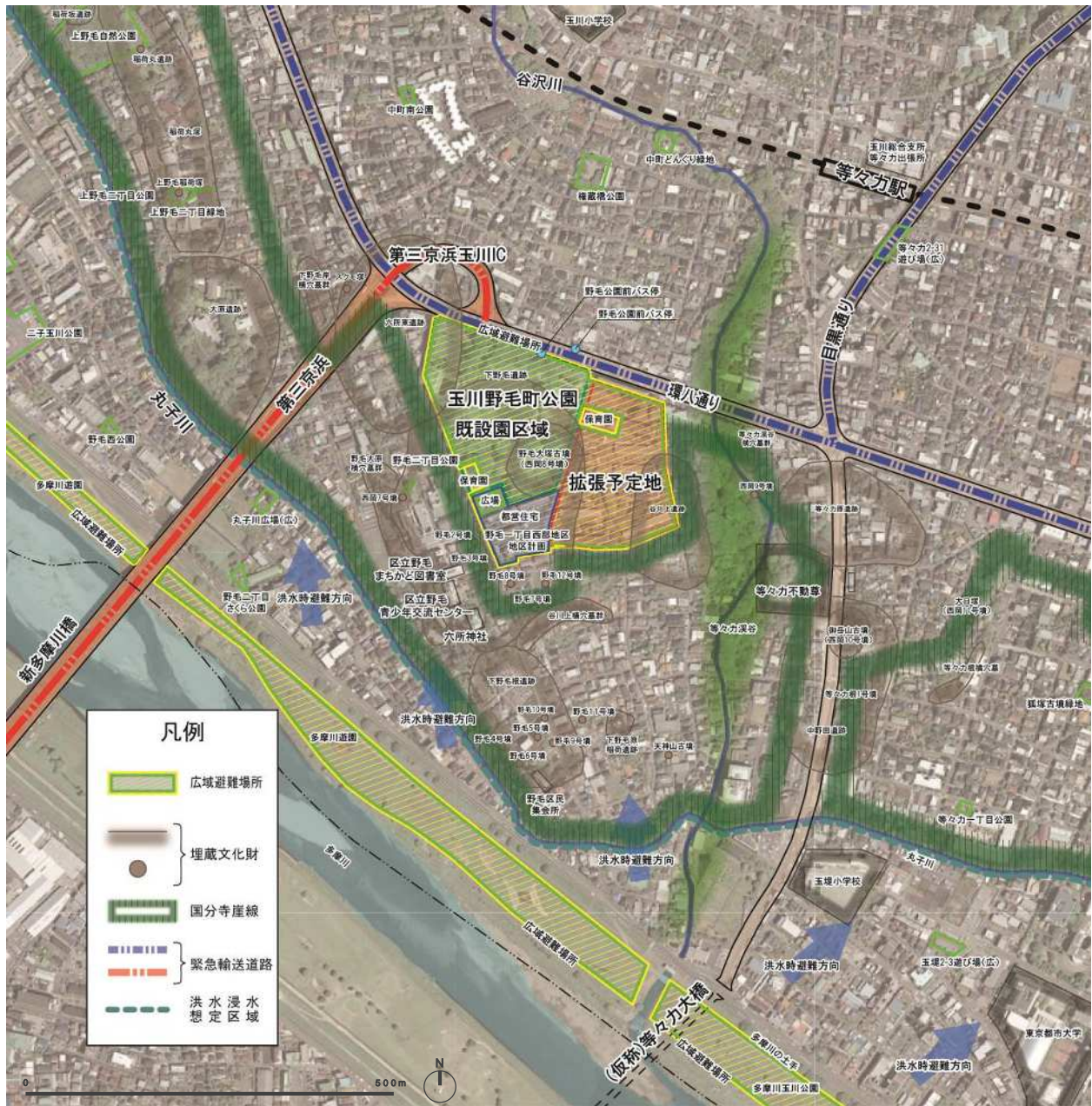


既存通路（拡張予定地）

## 2 . 計画地の特性

玉川野毛町公園は国分寺崖線の崖上の武蔵野台地に立地し、周辺には多摩川や谷沢川（等々力溪谷）が流れ、周辺道路には環八通り、目黒通り、第三京浜が存しています。

国分寺崖線に沿って、みどりのネットワークが形成されているとともに、埋蔵文化財の包蔵地も点在しています。また、多摩川に沿った低地部は、国土交通省京浜河川事務所が公表している多摩川洪水浸水想定区域図（水防法14条）による洪水浸水想定区域に指定されています。



玉川野毛町公園周辺図

## (1) みどり

世田谷区の地形は、主に武蔵野台地（標高 30～50m）と低地（標高 10～25m）から成り立っています。なかでも世田谷区の地形を特徴づける国分寺崖線は、約 10 万年前から多摩川と野川が武蔵野台地を削ってできたものです。

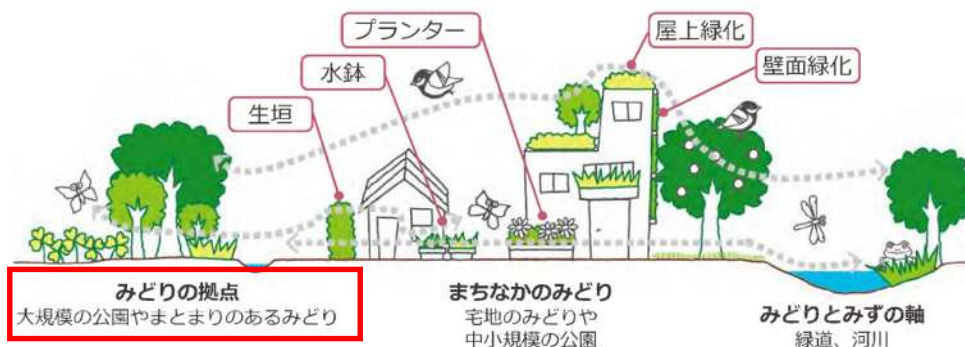
国分寺崖線は区内に残る唯一の帯状緑地帯であり、ケヤキやムクノキなどの落葉広葉樹、スタジイやシロダモなどの常緑樹をみることができます。玉川野毛町公園はこの国分寺崖線の南端に立地しています。

「みどりの基本計画」においては、多摩川とともに、重点的にみどりを保全する「骨格的なみどりの軸」、等々力溪谷とともに大規模な公園やまとまりのあるみどりである「みどりの拠点」と位置付けています。また、「みどりの拠点」として、みどりを保全、創出し、区内の様々なみどりとつながることで、「生きものネットワーク」に寄与します。



世田谷区の地形  
（出典：世田谷区の土地利用）

みどりのネットワーク図  
（出典：世田谷区みどりの基本計画）

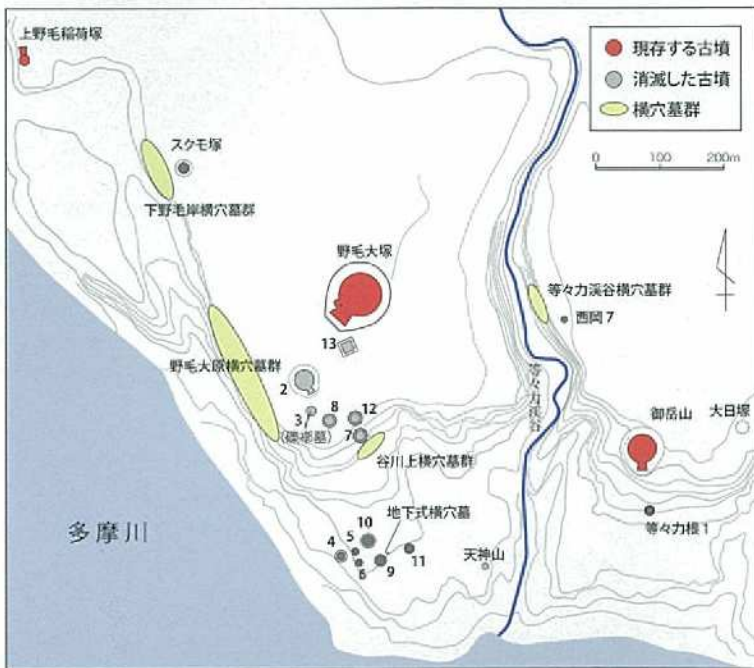


区内の身近な生きものの移動（出典：生きものつながる世田谷プラン）

## (2) 歴史

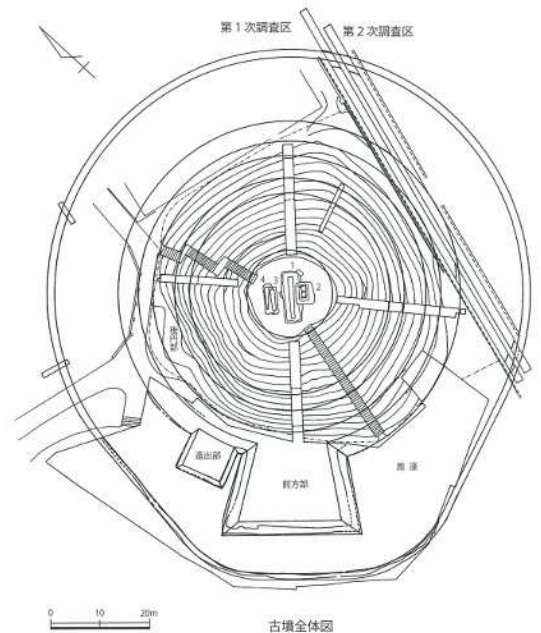
国分寺崖線沿いには、その崖状の特徴的な地形から古墳が多く分布していましたが、現在残っているものはその一部のみです。玉川野毛町公園に位置する「野毛大塚古墳」はその中でもひととき大きく、東京都指定史跡となっています。古墳の形は、「帆立貝形」と呼ばれ、周囲を馬蹄形の周濠がめぐっています。

野毛大塚古墳の出土品は、古墳時代中期の東日本を代表する資料で、畿内の中央政権と東国の関係を示す貴重なものとして平成28年に国の重要文化財として指定されました。



国分寺崖線周辺の古墳

(出典：野毛大塚古墳パンフレット：世田谷区教育委員会)



帆立貝形の古墳の形状

(出典：野毛大塚古墳展：世田谷区郷土資料館)

## (3) 防災上の位置づけ

玉川野毛町公園は災害時に一時的に集合する一時集合所や、震災時に拡大する火災の延焼などから避難する広域避難場所に指定されています。

また、玉川野毛町公園に隣接する環状八号線、目黒通り、第三京浜は、緊急輸送道路に位置づけられています。

公園内の樹林地は雨水の貯留、浸透機能があり、局所的な豪雨対策などに寄与するグリーンインフラでもあります。

地震や火災、風水害などの災害対策や防災上の観点において、玉川野毛町公園は都市部のオープンスペースとして、重要な役割を持っています。

グリーンインフラの説明については p 3 2 参照



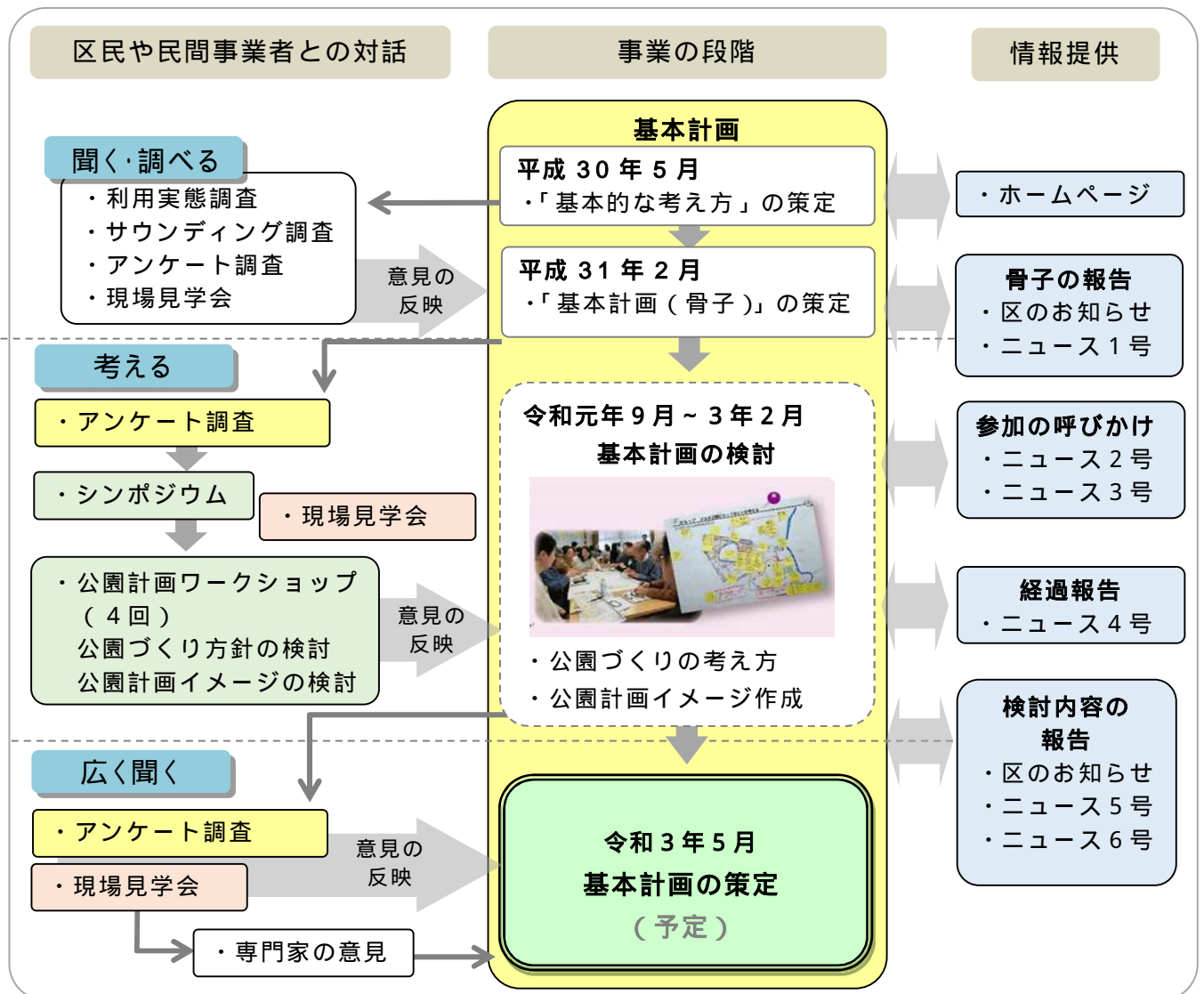
(出典：世田谷区上野毛地区防災マップ)

### 3. 対話による公園づくり

#### (1) 検討の経過

玉川野毛町公園拡張事業の基本計画の検討においては、区民や民間事業者と対話しながら、区民参加の公園づくりを進めてきました。

これまで、公園の利用実態や公園への需要について、区民や公園利用者へのアンケート調査や現場見学会、民間事業者へのサウンディング調査を行い、平成31年2月に基本計画（骨子）を策定しました。これらを踏まえ、区民と協働の公園づくりを考えるシンポジウムや公園の将来イメージを検討する公園計画ワークショップを行い、公園計画イメージをとりまとめました。そして、広く意見を聴取するアンケート調査や専門家の意見を踏まえて、基本計画の策定に取り組みました。



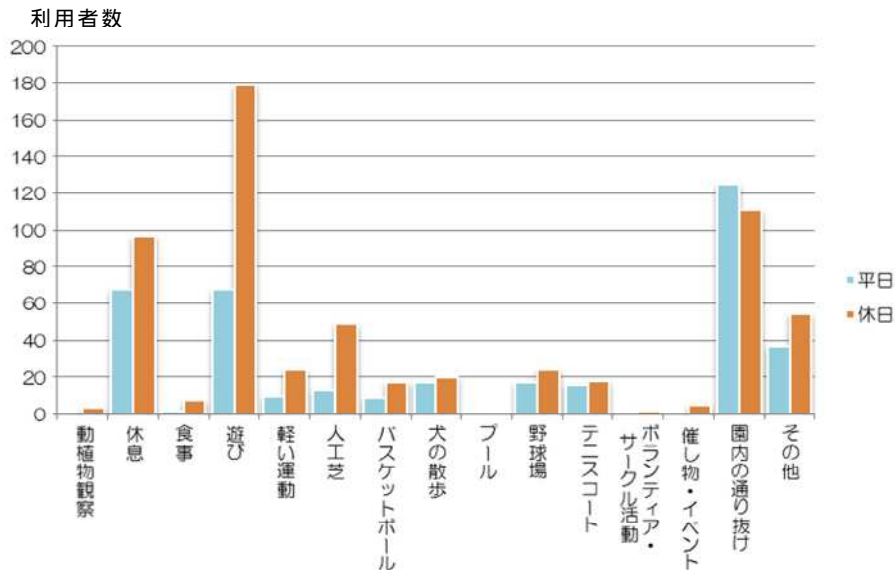
検討の経過

公園づくりの呼びかけや検討の経過などの情報提供は、近隣(約13,000世帯)へのニュース配布や区のお知らせ、区のホームページなどで行いました。

## (2) 区民や民間事業者との対話

### 利用実態調査

既開園区域において、平成30年6月に利用実態を把握するため利用行動の調査を行いました。平日、休日ともに「園内の通り抜け」や「遊び」「休息」などの利用が多いことがわかりました。



公園利用者の利用行動

### サウンディング調査

平成30年9月～11月、公園の魅力やサービスの向上を図るため、民間事業者など14団体との対話を通じて、計画地の可能性、民間活力の効果的な導入方策について意見交換を行いました。

#### 導入施設や公園の利活用に関する主な提案や意見

- ・ 飲食物販施設：カフェ、レストラン、物販店
- ・ 公園施設：公園運営の拠点となる施設（ビジターセンター等）の設置、イベント開催ができるオープンスペースの確保、健康増進施設、デイキャンプ場の拡充、駐車場の拡充
- ・ 公園の利活用：公園の利活用イベントの開催、みどりや野毛大塚古墳を活用したプログラムの実施

#### 導入施設検討にあたっての主な提案や意見

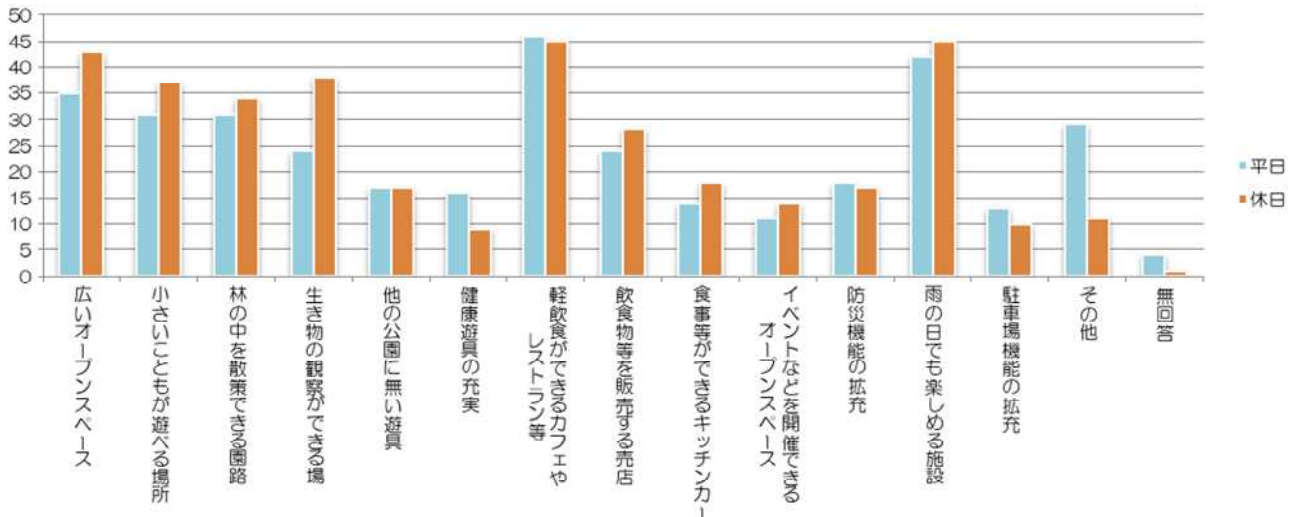
- ・ 飲食物販等の店舗について参画の可能性が示された。特に環八沿道等での店舗設置について、事業者からの評価が高い。
- ・ 等々力溪谷公園利用者の立ち寄りが期待できる。
- ・ 10年から15年程度の期間で投資、回収できる独立採算が可能な小規模店舗の導入（1店舗から複数店舗）があり得る。
- ・ 参画形態は、出店事業者による店舗建設またはテナントとして出店となる。
- ・ 店舗以外の施設の建設や維持管理への還元は難しい。
- ・ 公園利用者向けに店舗内のトイレ、休憩スペース等利用や施設案内窓口の活用が検討できる。

## 公園の需要に関するアンケート調査

平成30年7月、基本的な考え方をとりまとめた段階で近隣（約13,000世帯）現場見学会参加者（約500名）を対象にアンケート調査を行いました。

玉川野毛町公園に求める機能として、軽飲食ができるカフェやレストラン、雨の日でも楽しめる施設、既存のみどりを活用した施設として、広いオープンスペース、生き物の観察ができる場、林の中を散策できる園路、小さい子どもが遊べる場所に対する要望が多くありました。【回答：236件】

回答数（複数回答含）



公園に求める機能

## 現場見学会

基本計画の検討にあたり、基本的な考え方（令和30年度）基本計画（骨子）（令和元年度）基本計画のとりまとめ（令和2年度）の3つの段階において、現地説明や意見交換の場を設けました。

平成30年	7月	1日（日）	4日（水）	来場者数：約500名
令和元年	10月	2日（水）	6日（日）	来場者数：約200名
令和3年	2月	10日（水）	14日（日）	来場者数：約600名



現場見学会の様子